

ヤマトニュース



「ひまわり畑」PHOTO by S.YAMAOKA

2011年度 **Yamato** 研修会を開催

製品活用事例 | 次世代トラックスケール お手軽くん™

展示会レポート | FOOMA JAPAN 2011
| Interpack2011

製品情報 | データウェイΩ™シリーズ ADW-O-0132F
| 自動排出機構付卓上データウェイ™ TSDW-205

役員改選 | 新役員就任の挨拶 山本執行役員
| 2011年度役員職務分掌

2011.7

No. 404

次世代形トラックスケール お手軽くん™

2005年1月の発売以降、皆様のご協力を頂き、順調に販売台数を伸ばしております、次世代形トラックスケール「お手軽くん™」ですが、納入させて頂いたお客様の大半が従来形トラックスケールとして使用されており、最大の特長である「軸重・輪重・偏荷重」の計測機能を生かし切れておりませんでした。しかしこのたび、一般社団法人 日本海事検定協会殿のポートアイランド計量所に「軸重・輪重・偏荷重」を計測することを目的に納入させて頂きましたので、紹介致します。



という思いを強くされておりました。

一般社団法人 日本海事検定協会 ポートアイランド計量所では、従来からポートアイランドに陸揚げされるコンテナを輸送するコンテナトレーラーを計量証明事業(収益事業)として計量されておりました。しかしながら、昨今社会問題化しているコンテナトレーラーの横転事故の多発状況を鑑み、その防止に貢献したい

一般社団法人 日本海事検定協会 ポートアイランド計量所では、従来からポートアイランドに陸揚げされるコンテナを輸送するコンテナトレーラーを計量証明事業(収益事業)として計量されておりました。しかしながら、昨今社会問題化しているコンテナトレーラーの横転事故の多発状況を鑑み、その防止に貢献したい

コンテナトレーラーの横転事故に関しては、コンテナ内部の状況(積み荷の種別、重量、積載状況→積み荷の片寄り)がトレーラーの運転手に知らされていないことが原因の一つとして挙げられております。このことに着目した日本海事検定協会殿は、コンテナトレーラーを計量所で計量する際に軸重・輪重・偏荷重を計測し、その結果を運転手に示すことで、コンテナ内部の状況(主に積み荷の片寄り)が分からなかったことに起因する横転事故は防止できると考え、軸重・輪重・偏荷重の計測及び運転手に対する計測結果の提示を社会還元事業として実施されることになり、大和製衡の次世代形トラックスケールをご採用頂きました。



このたび、日本海事検定協会殿への納入にあたり、解決すべき問題点がありました。それは、「計量するコンテナトレーラーが必ずしも計量器の真ん中には載らない」という点です。計量所のレイアウトの関係でコンテナトレーラーは大きく左折しながらトラックスケールに進入してくるため、計量器上で車輛が進行方向に対して右もしくは左に片寄ってしまい、これをそのまま計量しますと特に輪重・偏荷重の計測に大きく影響してしまいます。(積み荷が真ん中に載っていても車輛が左に偏れば左が、右に片寄れば右が重くなる)

そこで当社では、計量器入口に測長センサーを左右に1個ずつ設置することでこの問題を解決致しました。この測長センサーはレーザーによって対象物との距離を計測するものですが、これを左右両側に設け、計量器の端から車体までの距離を計測し、車幅と車体の偏りを計測します。この計測結果を元に軸重・輪重・偏荷重を補正することにより車体が計量器上において左右どちらかに片寄っても正確な計測ができるようになりました。



現在、軸重・輪重・偏荷重の計測結果を計量伝票に印字し、これを運転手に渡すことで安全運転の啓蒙および横転事故防止に役立てて頂いておりますが、今後は積み荷の片寄りと同様かそれ以上に横転事故の原因となっている、積み荷の重心高さの計測に関して、日本海事検定協会殿のご協力を頂き、実機テストを行うことになっております。こちらにつきましても近い将来、皆様にご紹介させて頂けるとお思いますので、よろしくお願い致します。

2011年度

Yamato 研修会を開催

2011年度Yamato 研修会を、全国の有力販売店様33社のご参加を賜り、7月6日に兵庫県神戸市のオリエンタルホテルにて開催致しました。



開会宣言・社員紹介の後、川西社長より2010年度売上げ拡大にご尽力頂いた販売店様に心よりの感謝を込め、感謝状と記念品を贈呈致しました。

そしてご出席各社のご代表として、高森コーキ株式会社高森社長様より謝辞を頂きました。

また、特別表彰として、2010年度弊社の重点機種について最も顕著な貢献を頂いた販売店様に対し、感謝を込めて表彰させて頂きました。

このあと長尾事業部長より、2011年度普通はかり事業部方針を下記の通り発表致しました。

「不定貫はかりに定量ソフトを付加し作業の仕方を変革する、すなわち物品の販売から作業を売るということにシフトしてゆき顧客メリットを追求すると共に、革新技術による市場拡大を基本戦略として普通はかり事業を推進してゆく」

新商品展示コーナーでは、重点機種のDP/UDS/TDWを用いた定量コンセプト商品として、不足数量表示機能、減算式組合せはかり等の紹介と、7月に新発売の自動排出機構付き組合せはかりを展示し、作業改善による顧客メリットの説明を行いました。また産機・自動機器製品では革新技術を搭載した次世代形粒体パッカースケール

と、新製品のデータウェイオメガ™シリーズの紹介を、新たなビジネスの事例を交えて発表致しました。

研修会の後、オリエンタルホテル内のディナーショー会場において、皆様の日頃のご愛顧に感謝する懇親会を開催致しました。

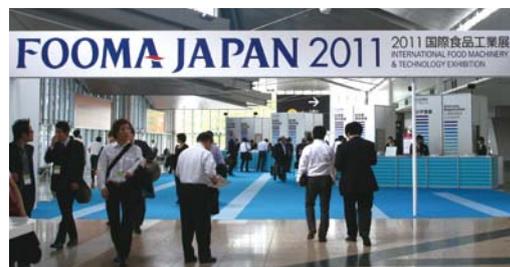
会場では、Yamato Music Festival Vol.11と題し、オペラの鑑賞やプロのサクソフォン演奏による華やかなステージと、昨年に引き続き川西副社長を含むYamato 社員バンドのサプライズ演奏を行い、大変な盛り上がりの内に終えました。

翌2日は、ゴルフ組と観光組に分かれ、ゴルフは名門コース“広野ゴルフ倶楽部”でのプレーを、観光は大河ドラマの舞台となっている滋賀県長浜市を訪れ、江・浅井三姉妹博覧会の会場である「小谷・江のふるさと館」と「小谷・江のドラマ館」を観光し、昼食は鮎料理で有名な「鮎茶屋かわせ」にてお互いの親睦を深めて頂きました。

2日間にわたる研修会・懇親会・観光を無事終了することができましたことは、ご参加頂きました皆様のご協力の賜と深く感謝致しております。

FOOMA JAPAN 2011

今年もFOOMA JAPAN 2011(国際食品工業展)が6月7日から10日までの4日間、東京有明の東京国際展示場(東京ビックサイト)で開催されました。今年は3月11日に発生した東日本大震災の影響で開催が危ぶまれましたが、照明・冷房等の間引き運転や開催時間を例年より1時間短縮する事によって20~25%の節電を行いながら無事開催となりました。



本展示会は「食の安全・安心」に関心が高まる中、食品機械の最先端テクノロジー、製品、サービスを通して、「食の技術が拓く、ゆたかな未来」を提案する事を目的とし、34回目となる今回も昨年同様、東京国際展示場の東ホールを使用して「つくります!おいしい未来」をテーマに645社が出展し海外からの来場者数693名を含めて総数89,813名の総来場者数(主催者発表)がありました。

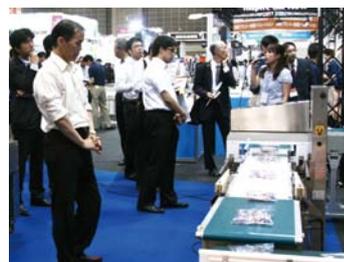
当社は東5ホールに昨年の2.5倍の小間数である30小間のブースを構え、「大和がつくる定量計量の未来」をテーマに今回日本初公開となる1分間当たり200回以上の計量が可能な新形のデータウェイオメガ™シリーズを中心に自動計量包装-検査機器-箱詰め-欠品チェックまでの一連ライン展示を行いました。



IP67の防水性能を持つデータウェイオメガ™シリーズの外見的特長の一つである多角形ホッパーは、計量業界では初めて拡散接合による部品接合を採用し、食の安全性に大きく寄与すると共に清掃性を高めるだけでなく剛性

をも高め、さらに固有振動数を高めることで振動を早く抑え、あわせて新開発された150kgの荷重に耐える高精度ロードセルとの併用で高い精度と高速運転を可能としながらも同時に従来比60%の消費電力削減でランニングコストを抑え、エコの時代にも対応いたしました。

一連ライン展示では新形データウェイ™ ADW-O-0314Sと(株)川島製作所様の縦ピロー包装機と連動



し、120回/分で計量・包装後、簡単調整・簡単操作・簡単メンテナンスで環境に優しい金属検出機一体形オートチェッカCSE22LM-FOで異物検査・重量検査を行い、ケースパッカーFCP-550VAで箱詰めを実演し、その運転の安定性は沢山の行き交うお客様の足を止め多くの御相談・お引き合いを頂きました。



その他、コストパフォーマンスに優れた汎用形データウェイ™ αシリーズのADW-510ACC

とコンパクトタイプのADW-314ACCや新形マニュアル式卓上式データウェイ™およびセミオート式卓上データウェイ™の実演、さらにトラックスケールの模型を利用した実演にも常に多くの方々に関心を示していました。

これからも大和製衡は常にお客様の御要望にお応えするために革新的な技術開発を行い、新しい技術を市場に紹介して参ります。

Interpack2011

INNOVATION IN MOTION

世界最大級の食品包装・加工機械展であるInterpack2011が、5月12日から18日の7日間、ドイツのデュッセルドルフ (Messe Dusseldorf) にて開催されました。出展企業は世界約60ヶ国から2,700社を超え、ヨーロッパのみならず世界中から約166,000名の来場者がありました。



当社ブースでは、「INNOVATION IN MOTION」をテーマに、新製品データウェイオメガ™シリーズのフルラインナップの展示、そして、定量計量の世界を産機製品、普通はかり製品へと拡大するYamatoの国際企業としてのポジションと方向性を明確に示しました。また、隣接する包装機メーカーMespac (スペイン)の6連縦形包装機との連動による6点同時排出モデルADW-O-0132Fのデモンストレーションを行い、大和が提唱する「将来の計量包装システムのあり方」をビジネスコンセプトモデルとしてご来場の皆様にご紹介し、多くの関心を頂くことができました。

今回の展示特長は、各食品業界に対するソリューションに焦点をあて、“アプリケーション・アイランド”と銘打ったコーナ毎の展示レイアウトを行いました。そして、実演運転や新旧の計量包装システムの比較映像をスクリーンに映すなどし、データウェイオメガ™シリーズによる生産性・操作性・メンテナンス性・食に対する安全性・環境対応性の実現について、ご来場の皆様にご理解いただけるような展示を行いました。

その結果、多くのご来場者に当社の製品について興味を持って頂き、既存の計量包装システムに関するご相談や新しい引き合いを数多く頂戴することができました。

この展示会を機に、今後もさらに多くのお客様との交流を深め、生産現場のニーズに沿ったよりよい製品を開発し、貢献できるよう努力してまいります。



6点同時排出モデルADW-O-0132F

Yamato Evening 2011

Interpack恒例のYamato Eveningが展示会期半ばの5月16日にDusseldorf市内にて開催されました。

今回は当社の現地子会社であるYamato Scale GmbH(ドイツ)の設立25周年のお祝いも重なり、欧・米・アジアなど世界各地よりエンドユーザ様・代理店・包装機メーカーに加え、同社が拠点を置くヴィリヒ市の市長ご夫妻を迎え盛大に催されました。



Yamato Evening開会冒頭、川西社長より東日本大震災にて被災された方々に対し、「悲惨な被災地にも変わりなく輝く星空があり、未来への希望がある」というメッセージに続き、川西社長による演奏「スターダスト」が奏でられ、パーティーが始まりました。



エンターテイメントは和太鼓演奏「テンテゴ」や川西社長・川西副社長を中心にした大和メンバーによるジャズ演奏など、よりプロフェッショナルなプログラムで観客を魅了しました。また、18日のヴィリヒ市のホームページには、Yamato Eveningの紹介記事や大和製衡の歴史が紹介されました。

この国際的な和やかなお客様との歓談やすばらしいエンターテイメントにより、更なるお客様との強い絆を築くことができ、最後は「一本締め」で閉会となりました。

データウェイΩ™シリーズ ADW-O-0132F

主に食品の製造現場において長年、計量包装工程でのシール不良による廃棄は企業の生産効率の低下や利益の減少をもたらしてきました。

大和製衡は、この問題に対して「組合せはかりは包装机への供給機である」と位置づけ、「包装机の能力を最大限に生かす」ことを追求することで、「1台の組合せはかりに独立した排出経路と、複数の集合ゲートによって各計量ヘッドからの排出された品物を一旦受け止め、かたまりにして初速ゼロで包装机へ排出する」という一貫したコンセプト「下基準」を追求して参りました。

これにより高速運転においても集合ゲートから包装机に排出された品物と品物の間隔(プロダクト・ウィンドウ)が広くなり、包装机でのシール時間が十分に確保されシール不良を削減いたします。

今回、「下基準」コンセプトを加え、従来の既成概念を

打ち破った、多点同時排出による生産性の向上を実現した32連モデルADW-O-0132Fをご紹介します。

ADW-O-0132Fは1台のはかりに6つの「独立排出経路」と「集合ゲート」を持ち、6点同時に品物の排出を可能としました。(最高計量速度1分間あたり600計量/分)この技術は組合せ計量機では供給が難しいとされた、多連式包装机や多列ラインへの供給を可能にし、しかも大和独自の同時組合せにより高精度な組合せ計量を行うことが可能です。この「下基準」に基づく「6点同時排出機能」は計量包装システムの生産性を高めるだけでなく、ユーザー様に幅広い包装形態の選択肢を提供し、商品企画の可能性を大きく広げます。

高速、高精度計量を実現したことにより、計量包装工程における生産性向上、不良率低減に貢献し、企業に安定した利益の増加をもたらすことを可能と致しました。



ADW-O-0132F

自動排出機構付卓上データウェイ™ TSDW-205

従来の卓上データウェイ™では計量物の載せ降ろしに人手が介在していましたので、作業者の能力によっては機器のパフォーマンスを発揮できない問題がありました。これを解決するために自動排出機構を装備し、取り出し作業の自動化により作業効率を200%改善させ、人員削減が可能となりました。また、排出時の落下による商品の損傷等の品質低下が懸念される商品にも、排出にベルト搬送方式を採用していますので段差が少なく、安心してご使用いただけます。定量パック詰め作業現場に幅広くご提案頂ける商品です。



※写真はフラット搬送コンベア仕様となります。

特長

① 生産性の向上

計量スピードは最大30パック/分を実現し、包装機との連動も容易に行えます。

※被計量物およびコンベアの排出スピードによって作業能力は変わります。

② 計量ロスの削減

目標重量値(規格重量)に最も近い最適な組合せを選択し、自動排出します。

人手作業では必ず計量ロスが生まれます。TSDWを使用すると、従来と同じ原材料で定量パックを増産することが可能となります。

③ 量目不足(不良品)の解消

人手作業で発生する量目不足を防止することができます。

④ 商品の傷みを最小限に

排出にベルト搬送方式を採用していますので、壊れやすい商品(梅干し、ドライフルーツ、せんべいなど)にも対応可能です。また、粘着物、バラものなどホッパー方式では困難な商品でも搬送が可能です。

⑤ 洗浄性の向上

計量、搬送コンベアおよびコンベヤベルトが脱着可能で、洗浄・殺菌作業が容易に行えます。

また、TSDW-205Wでは、器物の丸洗いが可能です。

⑥ コンパクト設計

コンパクトな機器サイズとキャスター標準装備で配置換えも容易に行えます。

V字搬送コンベヤ(準標準仕様)

フラット搬送コンベヤ(標準仕様)



干し芋、梅干し、ハム(チップ状)、ドライフルーツ、菓子、せんべいなど



エリンギ、しいたけ、マッシュルーム、ジャガイモ、生姜、トマト、ミニトマト、ニンジン、キュウリ、長芋、ぶどうなど

「景気に左右されない企業」を確実に実現するために

執行役員
経営企画部 部長
兼 情報システム課 課長
山本 勝



このたび執行役員に任命され、経営企画部長職を拝命することになりました。

昨年から日本経済は、企業の設備投資を中心に持ち直しの兆しが見られましたが、東日本大震災の発生以降、輸出や生産、個人消費が弱含み、今後においても円高や原油高、海外の一部地域での政治経済の混乱による設備投資意欲の減退などが懸念されます。

このような経済環境下において、他社と決定的に

差別化したナンバーワン商品の市場投入は、持続的な成長を実現する上で必須となります。

海外を含む大和グループ全体が一丸となって「ビジネス企画」という手法に基づき、革新的技術コンセプトをもった商品を市場投入することにより競争力アップを確立して参ります。

そして全事業において、新たな市場の開拓と拡大をビジネス企画商品にて推し進めることにより、市場開拓型の企業に生まれ変わり、重要な経営課題であります「景気に左右されない企業」の実現に引き続き取り組んで参ります。

またIT戦略として、抜本的な全社システムの再構築により、経営課題への解決を確実に支援し、業務プロセス全般を見直すことで、経営資源の効率化と最適化に全力で取り組んで参ります。

宜しくお願い申し上げます。

2011年度役員職務分掌

氏名	担当職務
川西 勝三	代表取締役社長
川西 能久	代表取締役副社長・事業本部長・MS経営責任者
大田 孝雄	専務取締役・総務部長
安尾 利和	常務取締役・事業本部副本部長 兼 産機事業部長
岡村 剛敏	取締役・事業本部副本部長 兼 自動機器事業部長
大松 基秀	常勤監査役
中村 貞雄	執行役員・事業本部副本部長(ビジネス企画海外担当)
長尾 武好	執行役員・普通はかり事業部長 兼 普通はかり技術部長
山本 勝	執行役員・経営企画部長 兼 情報システム課長【新任】
森口 莊八朗	顧問・総務勤労担当
林 豊彦	顧問・YSG代表【新任】